

平成 17 年度第 10 回大磯町教育委員会定例会会議録

1. 日 時 平成 18 年 1 月 25 日 (水)
開会時間 午前 9 時 30 分
閉会時間 午前 10 時 06 分
2. 場 所 大磯町役場 4 階第 1 会議室
3. 出席者 澤 愛 子 委員長
原 田 義 彦 委員長職務代理者
渡 邊 修 司 教育長
鈴 木 一 男 教育次長
熊 澤 久 学校教育課長
瀬 川 健 生涯学習課長兼郷土資料館長
加 藤 幹 雄 参事兼図書館長
福 島 伸 芳 学校教育課副主幹
4. 傍聴者 3 名

(開 会)

出席委員が 3 名で定足数に達しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 2 項の規定により定例会は成立し、大磯町教育委員会会議規則第 14 条及び第 19 条の規定により傍聴を許可。暫時休憩ののち傍聴人が入室し再開した。

(前回会議録等の承認)

委員長より前回会議録の項目を読み上げ、出席委員全員の承認を得る。

議案第 15 号 平成 17 年度 3 月補正予算における教育委員会予算要求について

書記が議案を朗読し、教育長から提案理由の説明を行った。

学校教育課長)平成 17 年度 3 月補正予算における教育委員会予算要求について補足説明をさせていただきます。

別紙をご覧ください。まず、歳入でございますが、大磯中学校校舎耐震改修工事に伴う国庫補助金でございます。予算科目、教育費国庫補助金、地震補強補助金と大規模改造補助金でございます。この事業は、当初予算の計上におきまして、予算編成時期が設計委託を行っている最中で、最終的な工事内訳金額も算出されてなかったことや国の三位一体改革による補助金廃止、削減などの検討、また、新潟地震関係で地震補強の補助金が大潟に流れるなどの予想があり、当初予算では収入見込みを 80%程度と

して概算で計上いたしました。しかしながら、平成17年度につきましては、前年度並みの補助金内示があり、設計委託のなかでも可能な限り補助対象の工事を行うことにより、当初予算の約1.44倍の補助金をいただくことになりました。

次に歳出でございます。中学校の部活動で関東大会に出場した部活動の補助金です。予算科目、中学校費、教育振興費、教育振興推進事業の負担金補助及び交付金、部活動補助金でございます。この事業につきましては、おもに部活動の各種大会にかかる旅費、宿泊費等の補助を行うものでございます。今回は、1月7日土曜日に行われました県新人戦卓球大会におきまして、大磯中学校卓球部女子が3位、国府中学校卓球部女子がベスト8で関東大会に出場することが決まりました。また、大磯中学校卓球部男子もベスト8ですが、2月12日日曜日に再度予選会があり決定します。今のところ関東大会に出場できるだろうということです。関東大会は、3月18日から19日、栃木県栃木市総合体育館で行われます。以上でございます。

(質疑応答)

原田委員) 地震補強補助金の補助率についてですが、2分の1とか3分の1の国庫補助の比率がありますが、施設等に関わる部分については、2分の1と聞いていた記憶があります。2分の1、3分の1に対する基準、この場合には2分の1にするというような基準はありますか。

学校教育課長) ただいまのご質問ですが、今回の補正は、2つに分かれておりまして、地震補強は補助率2分の1で、大規模改修については3分の1の2本立てになってございます。当初は、3本立てでありましたが、国のほうで変更があり、最終的に県の指導もあって、この2つですべてをまかなうこととなります。

原田委員) その補助率の2分の1の部分については、公共投資で行う場合に起債の条件にするとか、大磯町というより他の市町村関係で聞いたことがあります。やはり大磯町もそのようなことで起債を起こして行うことになるのでしょうか。補助は2分の1ですが、残りの2分の1の部分についての資金繰りは、起債で行っていくことになっているのでしょうか。

福島副主幹) 事業費全体のなかに国庫補助分がありまして、その残った部分が普通、一般財源ですが、その中の75%以内で起債をみるということで、県貸付金が今回該当しております。要するに国庫補助金を差し引いた一般財源分の75%以内で県から貸し付けを受けております。実際、当初の持ち出しは、25%で僅かになります。ただ、起債ですから、今後返済をしていくこととなります。

原田委員) 教育費の地震補強という安全性に関わることは、補助金がある、なしに関わらず率先してやっていかなければならない事柄だと思います。起債が条件という前提になりますと、後年度負担と言いますか、雪だるま式になってしまうのではないかと。これは教育委員会の問題というよりは行政における国から市町村に至るまで、すべてに関わるものではないかと考えま

す。

学校教育課長) この工事については、今年度、町の負担は、非常に少なく済むということは今の説明のとおりです。

委員長) 今回の工事が一応終わったということで、結果的に実際にかかった費用が出てきたことによって、最終的に国の補助額が追加されたことではなく、国のほうの計算が確立されたので補助金が増えたこと、どちらになりますか。

学校教育課長) 国の方針で内示がされるのは、この時期で最初から出るのは難しく、それから先ほど申し上げましたように、当初3本立てということで法令関係の補助金という形で耐震対策と大規模改造に2つに分かれておりまして、合わせて使うことを考えておりましたが、最終的に県の指示があり、補助が出る、出ないのすみ分けが変わってきましたので、特に公共下水道の接続は出ないとか、額によって対応が違ってきましたので、最終的には2本立ての結果になりましたが、実際の収入見込みにより相当の増があったわけでございます。

委員長) 国の補助が増えたことによって、町の負担部分については、大きな増がなかったということですか。

学校教育課長) そういうことになります。

委員長) それから部活動の補助金ですが、昨年も出場してたいへん結構なことです。細かいことですが、一泊で、これには先生の費用も入っているのですか。

学校教育課長) 教員は、県費でございますので、県の対応で子供たちの旅費だけになります。

原田委員) この部活動補助金は、毎回というかその都度、補正を組んでいるような感じを受けますが、毎回、出場した場合、補正をするものですか。

学校教育課長) どちらの中学も部活動を盛んにやっていますので、普通ですと中郡大会、次に中ブロック大会と、このくらいまではどの部も出ていきます。次に県大会、ここまではある程度見込みがつかますが、県大会を超えとなりますと前にも申し上げましたように少し簡単ではない。関東大会、全国大会は、別枠でみています。当初から見込んだらというご意見もいただいています。やはり見込みきれない。どうしても勝たなければいけませんので、ベスト4とかベスト8のなかで、行くことができたので町として応援しようというようなことで、やってきていただいています。当初から必ず関東大会、全国大会へ行くことを見込んで予算化すればというひとつの考えですが、結果を待たなければ出ませんので、夏の時期と卓球部は、この時期にも関東がございますので、2回やることになります。この場合、これから関東ですが、夏の場合、7月、8月に県が終わると10日間ぐらいで関東、8月20日頃に全国になってしまいますので、あとからの補助ということで一度持ち出しをしてもらって、その後、町から補填する。それに対してもご意見をいただいています。やはり関東、全国大会は当初から予定するのは難しいと思います。

原田委員) 特にお聞きしたかったのは、子供たちは大会を目指して活動していると

思います。やはり関東大会、全国大会に行けるくらいの活動をやった結果、いけるようになった。けれども補正予算が認められていないから、実際に活動で行けるようになってもお金の裏づけがないから行けるかどうかでは困ります。補正予算で必ず議会で承認がいただけるという約束があれば、それでいいのですが。そういうなかでは、子供たちが不安で、本来一生懸命頑張るところを力が抜けてしまうことでは、なかなか意味がないと思います。ただ、学校教育課長が言われましたようにそういうことができるようなシステムになっているように受け止めますのでそこは安心しました。

教育次長) 我々のほうでも、今、学校教育課長が説明しましたが、やはりメリット、デメリットがございまして、1回立て替えてそれを払うのはいいのかと。まさにそのとおりでございまして、前もって当初から大枠で予算を取っていくことを考えなければいけません、やはり前年に次の予算を作りますので、そのときに想定できるものは、すべて予算に盛り込むと。県大会ぐらいまでは、想定できますが、関東大会、全国大会までは想定できませんのでこのような方法を取っています。いずれにいたしましても、本日ご承認をいただければこの内容で議会へ補正予算として提出してまいりますので、ご理解をいただきたいと思います。

原田委員) 教育委員会で承認を得て、次に議会の承認と。この2つのステップをクリアしないと予算がつかない。けれども大会が終わっていたり始まっていたりしますから、そうするとこの活動を指導している先生方、あるいは学校、保護者、また子供たちが不安な状態ではなかなか活動が進まないと思います。

学校教育課長) ここ何年か関東、全国大会へ行く場合は、自費満額というような形で補正を通していただいております、今後もそうしていただければと思います。ただ、県大会までの部活動費用を見込んでいますが、実際には、満額は出ておりません。たとえば50%程度の旅費等の配分で最終的にやらざるを得ない状況にございます。このへんのなかに関東、全国大会を見込んでしまうと膨大な額の違いが出てきてしまいますので、やはり県大会までは、近いので一人ひとり多額ではありませんから、それが100%支給にならなくても我慢していただいております。関東、全国大会では、半額の負担となりますとたいへんなことですので、今後とも町として満額の補助をお願いしたいと考えております。

委員長) それでは、関東大会、全国大会は、補正予算で対応するということにしたいと思います。

それでは、議案第15号については、ご異議ありませんでしょうか。

委員全員承認する。

委員長) 異議なしということですので、議案第15号については原案どおり承認いたします。

報告事項第1号 平成17年度大磯町教育研究所年度末講演会について

学校教育課長) 大磯町教育研究所年度末講演会につきまして、ご説明させていただきます。

日時は、平成18年2月20日月曜日、午後2時から午後3時30分まで、会場は大磯小学校体育館、内容は同和教育の推進についてということで、21世紀の人権を考えるという内容でお話をさせていただきます。講師は、人権文化を育てる会事務局長の水口好久さんです。この講演会は、大磯町教育研究所と大磯町立学校PTA連絡協議会が共催しておりますので、幼稚園、小中学校の教職員とPTAが参加をいたします。また、来賓として三澤町長がご挨拶をされる予定となっております。詳細は、資料のとおりでございますが、裏側に水口様のプロフィールが記載されていますので、ご覧いただきたいと思っております。以上でございます。

(質疑応答)

委員長) 毎年、この時期に人権関係の講演会をするという取り決めで、各教育委員会でも人権関係をやらなければならないということになっているのですか。

学校教育課長) そういうことになっているのではありません。町としては、人権、同和について随時行っているというのが基本的な考えでございます。以前はこの時期でなく夏に人権について広く行っていました。ここ数年からはこのような形で進めさせていただいております。特に学校関係はもちろんです。保護者のPTA連絡協議会も共催という形で行うことになっております。内容については、その都度考えておりますが、ここ何年かは人権関係をやっていることが多いということでございます。

委員長) 今回、教育研究所とPTA連絡協議会との共催ということですね。

学校教育課長) 今回は、そういうことになります。

その他

教育次長) その他については、4点ほどありますが、順次担当から説明します。1点目は、福祉文教常任委員会関係を学校教育課長からお願いします。

学校教育課長) 昨年の暮れに教育委員に見ていただいた大磯中学校の1号館の関係で本日、町の検査になっておまして、その前に議員の皆様にも見ていただきたいということで、私のほうから簡単に工事概要を説明させていただきました。3月15日までが工期だったのですが、早く完成しましたので、子供たちにも使わせたいので、2月の初めには、開放する方向で進めていることを議員に説明し、実際に学校を見ていただきました。たいへん喜んでいただきました。

教育次長) 続きまして、2点目、3点目は、ご出席いただきました成人式と駅伝大会について、生涯学習課長からお願いします。

生涯学習課長) 成人式と第52回大磯一周駅伝大会につきまして、報告させていただきます。1月9日、大磯プリンスホテルにおきまして開催いたしました成人式ですが、対象者364名のうち出席者264名で72.5%の出席率となりました。また、1月15日天候にも恵まれ、大磯運動公園におきまして開催いたしました駅伝大会ですが、地区から7チーム、団体から18チームの合計25チームの参加がありました。お配りいたしました大会速報をご覧くださいと思います。総合優勝は大磯高校陸上クラブ、地区優勝は北下町、団体優勝は大磯高校陸上クラブという結果になり、大会は無事終了することができました。しかしながら、応援に来ている方で運動公園男子トイレ前で倒れまして、残念ながらお亡くなりになっています。

(質疑応答)

原田委員) 今のお話で、ともに大きな事故が起こったということですが。

教育長) 成人式のほうは、大きなことがなかったのですが、駅伝のほうは観客の方が突然亡くなわれたということがございました。

原田委員) 駅伝については、事故のないように教育委員会、町としても対応していると思います。特に駅伝大会で亡くなられたということですが、大会を盛り上げていこうという気運が下火になったら困ります。やはり観客の部分、選手の部分の違いはありますが、対応にはより配慮し、大会を盛り上げてほしいと思います。

委員長) 実際にやっている方々を見ると、地域の参加が減っていると思いますが、一方、団体のほうがそれなりに頑張っていて、特に非常に若い方が結構いられます。これはいいことではないかと思いましたが。実際の運営は大変であり、もちろん健康と安全の関係は、より万全にしていきたいと思いますが、町の参加者方々が日頃から練習されていることも含めて、もし参加者たちが運営協力しなければいけないのであれば、早めに彼らに情報提供して話し合っしてほしいと思っています。参加者達と意見交換をして前向きに進めていきたいと思っています。

原田委員) 運動公園の近くの平塚学園の生徒が毎日練習をしております。夜まで照明をつけて練習をしていますが、そういった学校についても参加をお願いしたらいいと思います。甲子園にも出たこともある学校でもありますので、生徒がそういったものを見たりすれば、励みになると思います。そういったチームも参加していただくようなことも考えていきたいと思っています。

委員長) 大磯の名物のひとつとするならば、大磯以外の方からも参加していただければいいことだと思います。

原田委員) 私もそう思います。

委員長) それは、ひとつの考え方で、教育委員会で運営全部をやる必要はないと思います。時代が変わってきていると思いますので、今までどおりでやる

うということに拘らないほうが続けられるし、それに対応できる方策を考えていただければと思います。運営はたいへんだと思いますが、よろしくをお願いします。

教育次長) それでは、最後に次回の開催の予定でございますが、第11回につきましては、2月22日水曜日、時間は9時30分、場所は図書館でございます。それから第12回につきましては、3月22日水曜日、9時30分、場所は本庁舎の4階第1会議室で行います。

(閉会)

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

平成18年2月22日

委員長

委員長職務代理者

委員(教育長)

委員
